

令和3年度 第2回さいたまはーと推進協議会意見聴取結果

令和3年度第2回さいたまはーと推進協議会においては、書面による意見聴取を行ったため、各委員からの意見を下記に掲載します。

(意見聴取期間 令和3年10月27日～11月1日)

議題1：さいたまはーと「たのしむ」推進部会の設置について

各委員の回答

役職	委員名	さいたまはーと「たのしむ」推進部会の設置に	
		同意する	同意しない
宇都宮大学 地域デザイン科学部 社会基盤デザイン学科 教授	大森 宣暁	○	
公益財団法人 自転車駐車場整備センター 自転車総合研究所 所長	古倉 宗治	○	
埼玉大学大学院 理工学研究科 環境科学・社会基盤部門 准教授	小嶋 文	○	
モビリティ ジャーナリスト	楠田 悦子	○	
(一財)日本自転車普及協会 事務局長	大島 武巳	○	
埼玉県自転車軽自動車商協同組合 副理事長	井上 一	○	
埼玉県サイクリング協会 理事長	渡邊 廣次	○	
(一社)グッド・チャリズム宣言プロジェクト 代表理事	韓 祐志	○	
(株)サイタマサイクルプロジェクト 代表取締役	川島 恵子	○	
(一社)バイクロア 代表	松原 満作	○	
さいたま市商店会連合会 会長	大郷 恒吉	○	
東日本旅客鉄道(株)大宮支社 企画調整室長	伊藤 滋	○	
東武鉄道(株) 大宮駅駅長	小川 志朗	○	
(一社)埼玉県バス協会 専務理事	関根 肇	○	
(一社)埼玉県乗用自動車協会 事務局長	藤田 貢	○	
(一社)埼玉県トラック協会 常務理事	山本 淳	○	
(株)臼田 ファインモータースクール 品質保証部 リーダー	吉村 修一	○	
Wa-Life Labo 自転車安全利用コンサルタント	北方 真起	○	
埼玉県警察さいたま市警察部 主席調査官	佐藤 則明	○	
埼玉県県土整備部県土整備政策課 副課長	吉岡 一成	○	

その他意見等

(小嶋委員)

- ・さいたまは一と改訂版にて、社会情勢に応じた検討を継続して実施していることが分かった。引き続き、各施策を推進していくようお願いしたい。

(井上委員)

- ・本年7月にタンDEM自転車の公道走行が解禁され、視覚障害者も後部乗用(ストーカー)されることが予想されるため、前方乗用(パイロット)の養成講座が必要であると感じられるため、「たのしむ」部会で検討してはどうか。
- ・サイクリングマップについて、家族で楽しめる市内周遊マップの作成も検討してはどうか(文化財や旧跡、トイレ等を掲載)。
- ・2021年10月のある新聞記事内にて、自転車利用者の60.9%の方が自転車店舗での整備・点検を行っていないと掲載されていた。「自転車は車両である」という意識が低いとつくづく感じる。自転車を安心・安全に走る意識を向上するための施策・補助が必要であると感じる。

(渡邊委員)

- ・さいたまは一と改定版について、全般的に良くまとまっていると感じる。
- ・「まもる」
タンDEM走行解禁により、障がい者が自転車を楽しむことが可能になった。しかしながら、そのタンDEMの認知度はかなり低いと感じている。またタンDEMの前乗車(パイロット)の養成が急務となった。正しいタンDEMの乗り方やパイロットの知識や技量が大切である。埼玉県サイクリング協会では率先して講習会を開催しパイロット養成を行っている。サイクリスト以外の福祉施設の方々も関心を示し、積極的に参加されている。障がい者にも自転車に乗る楽しみが増えるのは大変良いことであると感じる。
- ・「楽しむ」
街おこしを兼ね、サイクリスが気軽に立ち寄れるショッパ(飲食・ショッピング等)が臨まれる。サイクルラックの設置は勿論ですがスタンプラリーなどを実施し年間のスタンプ数によってグッズ等のプレゼント(協賛企業)もあっていいのではないかと感じる。

(山本委員)

- ・「たのしむ」部会で意見聴取されるテーマにもなっているサイクルツーリズムの推進にあたっては、交通事故の削減と道路利用者の安全を確保するため、自転車通行環境の整備が必要であると思う。引き続き整備推進をお願いしたい。

(吉村委員)

- ・「たのしむ」部会の設置をはじめ、各専門の推進部会の設置に賛成である。専門知識を

有した方が集まることにより、より活発な意見が出ることに期待したい。

- ・今後、市民がオンライン等で会議体に参加し、市民目線からの意見を聴けるようにすると、より良い会議になると考える。

(北方委員)

- ・「たのしむ」部会において、これまでのクリテリウムという自転車競技のみならず、家族が楽しめる企画を考えて行けたらと考えている。

以上